

募集中

★フォトコンテスト作品募集中！
本年度もフォトコンテストを実施し『人・生きものにぎわう農村フォーラム』の中で表彰いたします。日頃の活動の中で、皆さんが輝いている一瞬をとらえた写真をお待ちしています。同時に小学生の皆さんの絵画コンクールへの応募もお待ちしています。詳しくは本地域協議会事務局までお問い合わせください。



★「農村まるごと」に関するご意見・ご要望など何でも結構ですので皆様の声をお聞かせ下さい。この情報誌や、協議会のホームページなどでご紹介させていただきます。

★みずすましアドバイザー研修会受講者募集中！

『地域での環境保全活動のリーダーや専門家として活躍するための基礎知識や理論・調査法の習得をめざして』

①魚類・両生・爬虫類コース
H22. 8. 4～8. 5 (2日間)

②植物分類・植生コース
H22. 8. 23～8. 25 (3日間)

いずれも受講料は5,000円
(学生4,000円)です。

詳しくは、水土里ネット滋賀 農村整備課までお問い合わせください。
TEL: 0748-42-7144



編集後記

★地球の反対側で開催され熱戦が続いた、サッカーワールドカップも閉幕しました。日本代表の大健闘にずいぶん元気もらった気がします。

これから、いよいよ夏本番ですが、暑さに負けずに、がんばりましょう。

(A.W)



わたしたちもがんばっています！

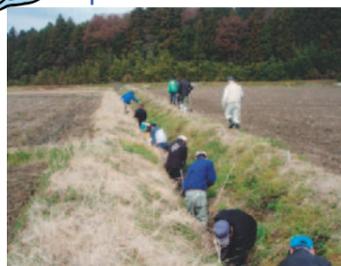
相撲庭町農地・水・環境を守る会 (長浜市)
副代表 山田 正博

長浜市相撲庭町は旧浅井町で伊吹山から七尾山麓に向けての、姉川の中流域との間に位置する、120戸の農村集落です。昭和57年からほ場整備事業が始まり、昭和61年に本工事が完了いたしました。ほ場は約550反で農家数92戸の小規模農家の多い農村地域でありましたが、ほ場整備事業完了後は、農地の区画も大きくなり、農道・用水路・排水路などが整備され、農業の大規模化が可能となりました。現在では、農家数50戸。まだまだ多いですが、その前と比べると、約半数の農家戸数になり、規模拡大が進んできており、現在の経営面積は、水稻約410反、小麦約140反、大豆・小豆が約40反であります。

まるごと保全の活動が始まって3年が経過いたしました。

参加組織は、「自治会、営農組合、老人会、婦人会、小中子供会、姉川沿岸土地改良区理事」でその役員が「農地・水・環境を守る会」の役員となり、年間の活動計画の策定をおこなっています。

共同活動作業としては、全戸(非農家含む)での農道整備、地区毎の、水路の泥上げ草刈りなどの取り組みも地域全体の事業として定着しております。



景観形成事業の成果として、みんなで気持ちを一つにしコスモスの花の栽培ができたこと。



また、子供たちが、大人と一緒にプランターの花植えを手伝ってくれたことにより、みんなの心を和ませてくれました。

水質保全の取り組みでは、濁水防止の啓発、水路溝畔からの濁水防止策として、畦塗り機による畦の構築。生態系保全として、ホタルの保護活動、研修会。また、子ども会と共に水生生物調査を行い、どのような水生生物が生息しているのか、この生き物と共生していくにはどのような環境づくりをしなければならないかなどの研修を行いました。



した。生活環境保全活動として、子どもたちが手書きの「ゴミを捨てないで！」の啓発看板を設置してくれました。

まるごとだより 第15号

にぎわいある農村をみんなで守り育てよう

『農村まるごと保全技術研修会』を開催しました。

農村地域の生物多様性を図るため、琵琶湖周辺水田の「魚のゆりかご水田プロジェクト」に加え、今年度から中山間部や平野部における「豊かな生きものを育む水田プロジェクト」を推進しており、その一環として5月と6月に開催した農村まるごと保全技術研修会の概要について報告します。

■第1回 農村まるごと保全技術研修会&魚のゆりかご研修会(H22. 5. 31) ■
【現地研修1：多賀町敏満寺「敏満寺農村まるごと保全対策協議会」の取り組み】

地域にとっては初めての取り組みでもあり、大滝山林組合と県の技術協力を得ながら、間伐材を用いた手作り魚道を設置しました。ドジョウやコブナなどが上がりやすい構造に仕上がりに、6月中旬の降雨によりドジョウの遡上が確認されました。

【現地研修2：米原市長沢「長沢環境保全の会」の取り組み】と【室内研修：事例報告】

平成16年度に県が考案・設置した魚道(写真右)による遡上実験の成功を契機に「魚のゆりかご水田」への関心が一気に高まり、今では、まるごと保全の取り組みとして地域に定着しています。また、地域の有志で休耕田を活用したビオトープ整備が行われるなど活動の輪が広がり地域はにぎわっています。午後からは、「近江母の郷」において中間評価(詳細は次頁)や魚のゆりかご水田プロジェクトの報告、「長沢環境保全の会」の活動紹介、(株)ホクコンが開発した簡易魚道について説明があり、盛会のうちに終了しました。

地域協議会では、魚道づくりをはじめ生態系保全の取り組みに関して積極的な情報提供や技術支援をいたしますので、気軽にご相談ください。

■第2回 農村まるごと保全技術研修会&先進地視察研修会(H22. 6. 18) ■

第2回研修会は、「コウノトリの舞う郷づくり」で有名な兵庫県豊岡市を訪れました。同市は、戦後の自然環境の悪化等が原因で絶滅したコウノトリと人が共生するまちづくりをテーマに、「コウノトリにやさしい農法」を推進しており、減農薬減化学肥料による農産物栽培や生きもの豊かな農村環境の保全をとおし農産物ブランド化や地域のイメージアップに取り組まれています。

今回の研修をきっかけとして県内で豊かな生きものを育む水田などの取り組みがさらに広がることが期待されます



目次

☆農村まるごと保全技術研修会を開催しました。

☆世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策中間評価について

☆まるごと対策を活用したまちづくり (愛荘町)

☆わたしたちもがんばっています！
「相撲庭町農地・水・環境を守る会」 (長浜市)



発行 (2010. 7)

滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会

〒521-1224

東近江市林町601番地
水土里ネット滋賀内

電話 0748-42-4806

FAX 0748-42-5574

Email: kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com



【敏満寺の水田魚道】



【長沢の水田魚道】



【豊岡の水田魚道】

【生態系保全型排水路】

滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会

- 本協議会は、活動組織への支援や、採択手続き、交付金の交付事務などを行っています。
- 書類作成にかかる参考資料や活動事例などの情報をホームページでお知らせしています。

<http://www.shiga-nouson-marugoto.com/index.html>

Email: kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com

農村まるごと

検索

世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策中間評価について

「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」は、地域ぐるみでの効果の高い共同活動と農業者ぐるみでの営農活動に対し一体的な支援を行い、農地・農業用水等の資源と農村の豊かな自然環境を良好な姿で次世代に引き継ぐことを目的としています。

事業開始から3年が経過した今年度、県では、本対策の一層効果的な推進と次期対策を見据えた制度の検証などを目的に、有識者で構成された「農村まるごと保全推進委員会」から事業実施状況に対する適切な助言を得ながら「中間評価」に取り組んでいるところです。

平成21年度の実施状況を見てみると、活動組織数は792組織、取り組み面積は県内農振農用地の約2/3に相当する33,050haにおいて共同活動が取り組みられ、そのうち、11,352haにおいて営農活動が取り組まれています。これら活動に対して交付された県費は、共同活動に対しておおよそ2.8億円、営農活動に対しておおよそ1.8億円にのぼり、県予算の中でも大きなシェアを占めています。

このことから、本対策は県民の理解のもと推進することが重要であり、中間評価の実施にあたっては透明性や客観性が求められます。

中間評価では、昨年度末に皆さんから協力いただいたアンケート結果をもとに、本対策の直接的な目的である「1農地・農業用水施設の適切な保全による長寿命化（アセットマネジメント）」、「2みずすまし構想」、「3環境こだわり農業」の各視点から効果を検証するとともに、活動を通じて発揮される「4地域活性化」や「5地域農業振興」の視点か

ら効果を検証しましたので、その一部を紹介いたします。

まず、「1農地・農業用水施設の適切な保全による長寿命化（アセットマネジメント）の視点」からは、「畦畔の再築立」「開水路の目地詰め」「側壁の裏込め材の充填」などの取り組みが顕著で、きめ細かな対応により施設の長寿命化に大きく寄与しています。「2みずすまし構想の視点」からは、必須活動となっている農業排水対策をはじめ、「生物の生活史を考慮した適正な管理」や「景観形成のための施設への植栽」が大きく増えています。「3環境こだわり農業の視点」からは、約8割の農業者が「強制落水はすべきでない」と回答しており農業排水に対する理解が深まっています。「4地域活性化の視点」からは、集落の活発度を反映する寄り合い回数が「増えた」と回答した割合が増加したり「農業農村の保全活動に関する地域住民の変化」として子どもから高齢者まで世代を超えたつながりが深まっていることや、農業者だけでなく非農業者も含めた取り組みに変わっていることが明らかになりました。

このように、いずれの視点からも概ね高い効果を上げていることが分かりましたが、農家の減少や高齢化など農村の存続に関わる課題に的確に対応しうる施策の展開がこれまで以上に強く求められています。そのためにも、本対策が地域の実情に応じた柔軟な運用が可能で、地域力を高める施策となるよう取り組んでいきたいと考えています。



まるごと対策を活用したまちづくり

愛荘町 農林商工課

愛荘町は、琵琶湖の東に広がる湖東平野に位置し、鈴鹿山系からの豊かな清水と自然に恵まれ、古きよき伝統が受け継がれてきたまちです。

近年、当町にも農村の高齢化が進み、農業の担い手不足が問題になっておりますが、まるごと対策の取り組みにおいて、農地・農業用水等の適正な保管理や各種団体を巻き込んでの環境保全への取り組みなどに理解が得られ、最も取り組みやすい区長や農業組合長を代表とした集落単位での組織で活動を実践しています。

現在、当町の当対策の取り組み状況は、共同活動に29組織、営農活動に15組織で農振農用地面積の約72%にあたる1,079haで活動を展開しております。

共同活動では、役員を中心に年度当初各施設の点検や機能診断を実施。結果に基づき計画を立て、きめ細やかな草刈りや用水路・排水路の補修、畦塗り、砂利の補充など実施しております。

なかでも、土地改良事業が完了してから30年以上経過していることから施設の老朽化が進み、当対策の交付金を有効に活用して、維持補修を重点的にお願いしております。

維持補修については、活動組織で補修計画の話し合いを繰り返し行い、主体的な取り組みを進めています。

また、各種団体が参加して行う、ごみ拾い、生き物観察会は、全ての組織で実践しております。

特に将来を担う子どもたちに、生きものや水、農村環境の大切さをしっかり教えることが今の私たちの責務であることから、当対策の取り組みにより、将来の当町の担い手として農村を守り続けてもらえるように、充実した事業展開をお願いしております。



活動組織の方々と話すなかで、「水がきれいになり、昔のようにホテルやドジョウが戻ってきた！」という報告を多くの活動組織から受けています。このような結果を見ますと、少しずつではありますが、農村の環境保全への取り組みも成果が出てきていると感じます。



当町の営農活動では、こだわりの水稲および大豆に取り組まれています。

集落内で消費者との意見交換会を実施する組織も増え、安心・安全な農産物の生産量の拡大、地産地消の推進を今後も進めていきます。

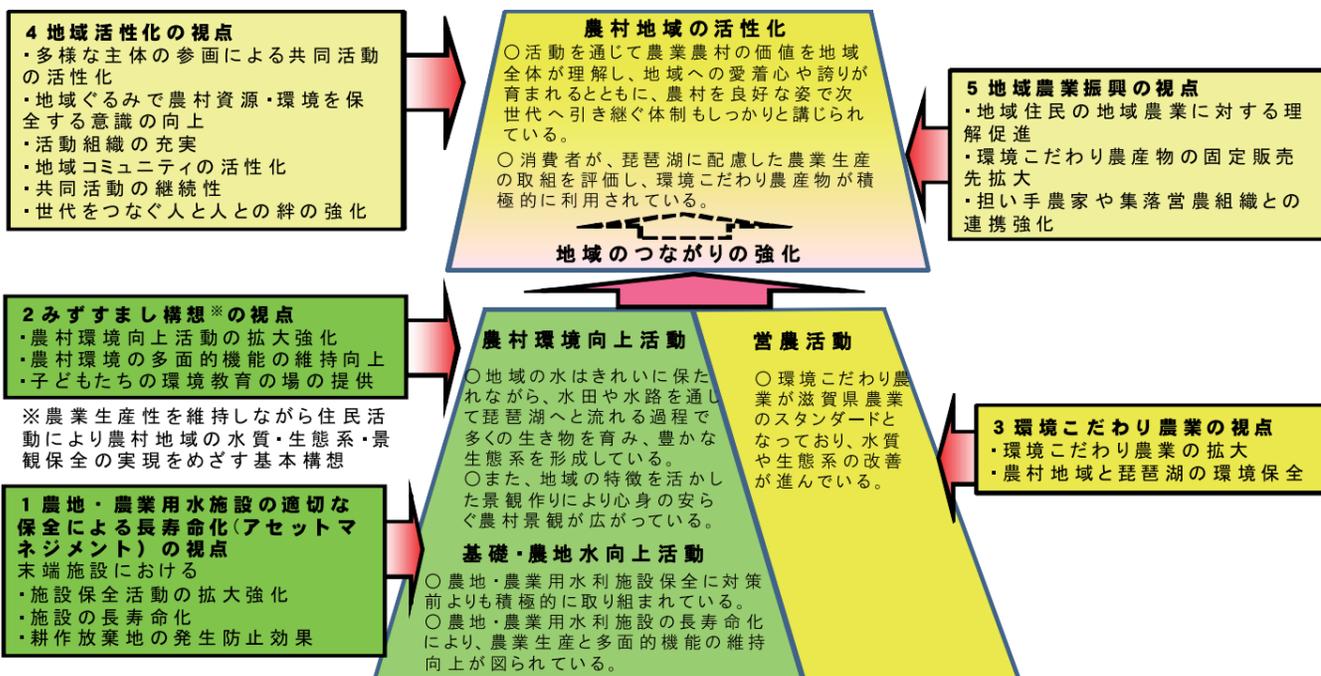


活動組織から「組織を動かしていくことや事務処理が大変であるが、地域のコミュニティが今まで以上に深まり、取り組んで良かった！」という声や、一部非農家から「農業をやりたい！」という声も聞くようになり、町としましても、大変うれしい言葉をいただき、平成23年度以降も、活動を引き続き実践していただけるよう、さらに指導・推進していくことが重要と考えています。

農業離れが急速に進む今日、この対策で多くの若者に農業や農村について興味を持っていただき、活動を軸に集落が活性化、さらには町全体がにぎやかになることを期待しています。

先人が築き上げられた豊かな自然環境を皆さんと一緒に保全し、次の世代へ引き継ぎたいとの思いをめぐらせています。

～ 評価の視点 ～



お知らせ

★人・生きものにぎわう農村フォーラム “2010” を開催します

期日：H22.11.14
場所：野洲市比留田 豊積の里総合センター さざなみホール

内容：
◎フォトコンテスト・絵画コンクール表彰
◎基調講演

曾根原 久司さん
《プロフィール》

1961年生まれ
昭和60年明治大学政治経済学部卒業後、金融機関等企業経営の経営コンサルタントを経て現在に至る。

《主な役職》
・山梨大学客員准教授
・山梨県立農業大学校講師

・東京農工大学農学府 非常勤講師

◎事例発表 など

★ご近所お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

質問コーナー

★(質問)
活動記録の記入で注意点について教えてください。

(答え)

地域活動指針で2回以上実施する必要がある活動《施設等の定期的な巡回点検・清掃等；年間概ね5回程度の実施等》については、活動記録で確認できるように忘れずに記入してください。

